

産学連携キャリア教育実践の追跡調査報告と 支援システムへの改善提案

鈴木 孝幸[†] 須藤 康裕[†] 八木 勲[†] 鷹野 孝典[†] 宮崎 剛[†] 木村 誠聡[†] 稲葉 達也[†] 納富 一宏[†]
神奈川工科大学 情報学部情報工学科[†]

1. はじめに

大学におけるキャリア教育[1][2][3]の重要性は、社会状況が大きく変わるなかで増大している。神奈川工科大学でも授業としてのキャリア設計・開発、インターンシップ、および就職支援講座の実施等、学生の就業意識・キャリアデザイン力の形成から、学修内容の活用力及び社会人としての責任力の育成までを支援する教育体制を整備しつつある。神奈川工科大学情報学部においても、H24年度より神奈川県情報サービス産業協会[4]（以下、神情協）の寄付講座「情報技術者概論（SE講座）」がスタートしている。さらにH26年度からは、神情協と連携を深め、本学のキャリア教育の趣旨に沿った企画として「会社訪問体験」を実施している[5]。

本稿では、学生が実際に2時間程度の内容で産学連携キャリア教育の実践として企業訪問を行っている「会社訪問体験」の実施体制と支援システムの仕組みと今後の改善案を述べる。また、前年度に会社訪問体験を実施した学生に対して、実際に就職活動を行なったの「会社訪問体験」により就活への意識の変化のきっかけになったか追跡アンケートによる調査の計画についても報告する。

2. 「会社訪問体験」と統合化支援システム

「会社訪問体験」の2017年度の実施手順は下記の順番で行った。情報学部3年次生を中心とする学生が5~7名程度のグループ毎に2時間程度の内容で企業訪問を行った。

- ① **訪問時期の調整（3月~5月）**：神情協と訪問時期についての調整を行う。その結果、9月と11月以降に実施することに決定
- ② **学生への実施告知（5月）**：学生に対して、実施の趣旨と内容とスケジュールの告知
- ③ **参加意向調査（5月）**：神情協に対して訪問枠を設定してもらう参考として、学生の訪問意向調査を実施

Follow-up survey for practice of academia-industry cooperation career education and proposal for improvement to support system

Takayuki Suzuki[†], Yasuhiro Sudou[†], Isao Yagi[†], Kousuke Takano[†], Tsuyoshi Miyazaki[†], Tomoaki Kimura[†], Tatsuya Inaba[†] and Kazuhiro Notomi[†]

[†]Kanagawa Institute of Technology

- ④ **正式申込（7月, 11月）**：神情協から提示された訪問枠を学生に提示して、申込みを実施。学内CMS型授業支援システムを活用
- ⑤ **事前オリエンテーション（8月, 11月）**：実施意図の再確認、訪問時の服装・マナー、メールの書き方、学内事務手続きについて座学で説明。訪問の前に企業への挨拶メールを、訪問後にお礼のメールを送信するように指導。訪問企業に対する調査のグループワークを実施
- ⑥ **訪問（9月, 11月）**：申込み企業への訪問。学内用の報告書作成
- ⑦ **事後オリエンテーション（9月, 11月）**：訪問での気づきの共有をグループワークで実施。訪問先企業からのフィードバックを用いた反省・振り返り。学内事務手続きの説明。アンケート調査

H26年度からの訪問学生数と訪問先企業数は、表1のように推移している。

表1 訪問学生数および訪問先企業数

実施年度	H26	H27	H28	H29
訪問学生数	69	97	50	60
(延べ)	(93)	(117)	(100)	(131)
訪問先企業数	10	20	18	17
(延べ)	(19)	(23)	(47)	(27)

延べ数で100名以上の学生が訪問しているため、学生が応募した訪問希望企業のとりにとめから、会社訪問を実施するための準備作業や報告作業の支援を効率的に行う必要がある。そのため、①訪問先の調整、②調査書・報告書作成、③挨拶・御礼メール送信チェックなど、ICT活用による統合型会社訪問体験支援機能の実現を目指している[5]。

H26年度から学内CMS型授業支援システムを中心に統合型会社訪問体験支援システムの構築として下記の項目の実現を目指している。

- (1) 訪問企業・学生間のマッチング調整作業の効率化
- (2) 事務作業の効率化
- (3) メール確認&リマインド支援
- (4) 書類作成・提出支援
- (5) 調査票・報告書評価支援

これらの項目の統合化を行ったシステムの構成と

今後の構想を図 1 に示す。

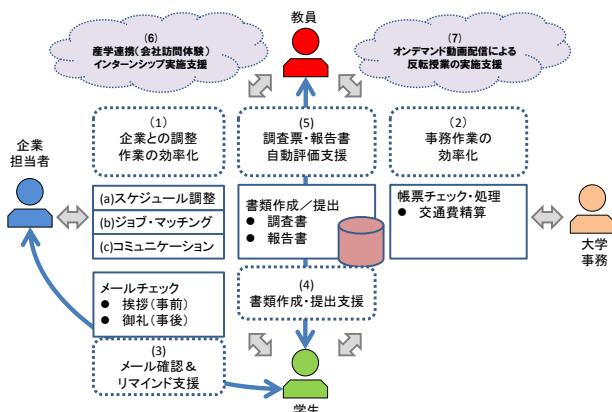


図 1 統合化支援システムの構成予定

次年度へ向けた計画では、さらなる効率化を目指す。主な改善として次の2点を予定している。(1) 訪問先企業と学生グループのマッチングの半自動化、(2) 調査票・報告書自動評価支援。(1)については、学生グループの形成と訪問先企業のマッチングの手間を省き効率的に行いたいという要望がある。リソースの制約がある中で、企業側の要求と学生側の要求をすり合わせる事で、訪問の満足度を高めたい。(2)については、訪問前の調査書と訪問後の報告書について定量的な評価(リーダビリティ評価と計量テキスト分析)を試みてみた[6]が、有意な結果が求めるにいたっていない。この研究を踏まえて、自動的に評価する支援機能を開発していきたい。

3.実施者追跡アンケート調査について

毎年、会社訪問体験実施者に対して事後アンケートを行っている。会社訪問体験の取組みがキャリア学習や理解に役立っているか否かに関する設問群では、毎回 85~90%の学生が「役立つ」と回答している。本取組以外のインターンシップ(1Dayを含めた)への参加意欲を問う設問では、60%の学生が「参加したい」と回答しているが、肯定的な意見は毎年減少傾向にあり、実際の参加状況については今後調査の必要がある。満足度に関する設問では、毎回 80%~85%の学生が「満足」と回答している。本取組の有効性や学生満足度については安定的に良い評価を得たと考えられる。しかしながら、学生の参加意欲向上に関しては課題がある。また、会社訪問体験の目的は、意識を向上させて就職活動につなげることが目的でもあるので、実質的な就職活動にどのように役立ったのかの評価は行えて来なかった。

そこで、就職活動を終了した学部4年生の前年度の「会社訪問体験」経験者にアンケートを実施し、就職活動において、「会社訪問体験」を経験したことがどのような影響を与えたかの追跡調査

を計画し、実施している。本格的な就職活動前の本取組が就活意識向上に寄与していた点を明確にするとともに、今後の本取組の改善を行う予定である。

4. おわりに

本稿では、産学連携キャリア教育実践としての「会社訪問体験」の4年間の取組みの事例の報告と、取組みを効率的・省人力化を目指し構築した統合支援システムとその将来構想を示した。

また、従来、会社訪問体験終了直後に行っていたアンケートによる評価に加えて、実際に就職活動を行った学生に対する追跡調査の実施の計画している。その結果を踏まえた今後の取組みの改善を予定している。今後、神情協との関係を深め、さらなるキャリア教育の実践と、学内での他学科への普及を目指す。

文 献

- [1] キャリア教育：文部科学省：http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/。(参照 2018.1).
- [2] 社会人基礎力(METI/経済産業省)：<http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/>。(参照 2018.1).
- [3] 「学士課程教育の構築に向けて」中央教育審議会答申の概要：文部科学省：http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/siryo/attach/1247211.htm。(参照 2018.1).
- [4] 神奈川県情報サービス産業協会：<https://www.kia.or.jp/>。(参照 2018.1)
- [5] 鈴木孝幸, 八木 勲, 鷹野 孝典, 宮崎 剛, 稲葉 達也, 納富 一宏: 学生の意識向上を目指した産学連携キャリア教育の実践, 電子通信学会教育工学研究会, 香川大学, (2016.3).
- [6] 鈴木孝幸, 八木 勲, 鷹野孝典, 宮崎 剛, 稲葉 達也, 納富一宏: 産学連携キャリア教育の学生報告書のリーダビリティ評価と計量テキスト分析による意識向上効果の報告リーダビリティ指標を用いた文章評価システムの開発, 情報処理学会 第 79 回全国大会, 6E-06, (2017.3).